

# 事業評価シート（平成27年度分）

## 1. 事業の位置付け

事務事業名	災害用備蓄拡充事業		
事業担当	防災危機管理部 災害対策課		
事業種類	●ハード ○ソフト		
総合計画の位置付け	'05	基本目標5 安全で、みんなが快適に暮らせるまち	
	'01	①〈安全〉災害に強い安全なまちづくりを進める	
	'02	2 被害を最小限に抑える防災の環境を充実する	
根拠法令等	災害対策基本法、平塚市地域防災計画		
対象・受益者	市民・職員・防災関係機関	事業期間	
委託、協働	【委託： 3セク・財団 企業 NPO その他】【協働： 】		
	目的・目標		事業の概要
災害発生後において指定避難施設を開設した際に、避難者に対して食糧や災害用トイレ、毛布等の必要物品を、速やかに提供することができています。		震災体制の充実のため、指定避難所に、資機材、食糧、生活必需品等を備蓄します。	

## 2. 事業の検証

活動指標①	指標名				単位	
	説明・算定式					
		平成25年度	平成26年度	平成27年度		
	目標					
	実績					
活動指標②	指標名				単位	
	説明・算定式					
		平成25年度	平成26年度	平成27年度		
	目標					
	実績					
成果指標①	指標名	避難所用投光機(バルーン型照明)備蓄率(平成26年度から)			単位	%
	説明・算定式	備蓄済みの投光機数÷(指定避難施設数(52施設)×2台)×100				
		平成25年度	平成26年度	平成27年度		
	目標		58	76		
	実績	58	76			
成果指標②	指標名				単位	
	説明・算定式					
		平成25年度	平成26年度	平成27年度		
	目標					
	実績					
進捗状況	①：予定どおり					
	遅れている理由					
平成27年度の主な取組と成果						
女性や高齢者、子ども等の要配慮者に配慮した備蓄品として、プライベートルーム、長期保存食(お粥)、おむつ(新生児用)等の整備を行いました。						
平成27年度の検証結果	A：成果があがった					

	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
事業分析	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 市民ニーズ <input checked="" type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input type="checkbox"/> その他	災害発生時に迅速な対応ができるよう、平常時から飲料水や食糧、生活必需物資、資機材などを現物で保有することは必要です。	<input checked="" type="radio"/> 高 <input type="radio"/> 低
	有効性	<input type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input checked="" type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input checked="" type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	女性や高齢者等の視点に立った備蓄を進めることで、避難所の生活環境の向上が図られます。	<input checked="" type="radio"/> 高 <input type="radio"/> 低
	妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input checked="" type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input type="checkbox"/> その他	現物として備蓄するものは、発災直後、被災住民等へ応急的に対応するためのものとして、特定の物資等については家庭などでの備蓄を働きかけています。	<input checked="" type="radio"/> 高 <input type="radio"/> 中 <input type="radio"/> 低
	効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input checked="" type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input type="checkbox"/> その他	企業等から災害時支援物資の提供を得るため、災害時応援協定を締結することで、必要となる食料や物資の確保に努めています。	<input checked="" type="radio"/> 高 <input type="radio"/> 中 <input type="radio"/> 低
<b>今後に向けた課題の分析</b> 現物による備蓄や、協定等による流通備蓄も進めていますが、自助による家庭内備蓄をさらに啓発する必要があります。また、災害時に即応できるように分散備蓄を進める必要があります。				

## 3. 年度別事業内容・決算額

(単位:千円)

		平成25年度 決算額	平成26年度 決算額	平成27年度 決算額
事業内容		避難所照明灯、食糧、災害用トイレ等の備蓄、防災倉庫の設置等	避難所用投光機、食糧、災害用トイレ等の備蓄等	避難所用投光機、食糧、災害用トイレ等の備蓄
財源内訳	国庫支出金	0	0	0
	県支出金	6,353	5,286	0
	起債	16,800	0	0
	その他 特財	0	0	15,208
	一般財源	33,090	24,069	13,407
事業費 (A)		56,243	29,355	28,615
執行率 (%)		90.06	61.06	90.98

## 4. 今後の事業展開(担当課としての提案)

<b>平成29年度の取組方針</b> 平成27年度に神奈川県から公表された地震被害想定のもとに備蓄を進めていくとともに、必要な備品について整備を進めます。
<b>課長コメント</b> 現物での備蓄、協定等による流通備蓄の確保だけでなく、自助による家庭内備蓄の啓発を進めます。